

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100064		
法人名	医療法人 泰山会		
事業所名	グループホームみよしファミリー園		
所在地	大分県大分市大字葛木字長溝872番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成26年5月22日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に沿ったサービス提供が出来る様に日々心がけ、入居者の一人ひとりに向き合える環境を整え、職員教育にも取り組んでいる。地域での散歩や季節に応じたドライブ・買い物・祭りなど外出の機会を多く持ち社会との交流が持てる様に努め日常的に調理の手伝いや食事の準備・畑の苗植え・梅干作りなど職員と一緒に活動していただきながら、やりがいを見出していただけよう工夫しています。入居者の笑顔が絶えることのないホームでありたいと職員全員が目標を持って仕事に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 管理者および職員全員が内部研修を通し、事業所の質の向上に意欲的に取り組んでいる。
2. 「普通の生活を当たり前で過ごす」という理念を共有し、研修で振り返りを行いながら、理念を具現化している。
3. 家族会や運営推進会議を有効に活用し、防災対策などの地域住民との協働関係を構築できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は全職員に求められており、どの職員も常に理念を意識して、実践につなげる努力をしている。	職員全員で理念を共有しており、普通の生活を当たり前で過ごせるように支援している。理念に沿ったケアを実施できているか、日常的に振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まず第一に職員が挨拶をしっかりと行う事で、入居者との散歩や、買い物の際に地域の方から声をかけて頂ける場面もある。	地域の方がボランティアで来てくれたり、花や野菜を届けてくれたり、年を経るごとに日常的な交流が増えてきている。今年度は避難訓練を通して地域との交流が深まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩、買い物などの場面に於いて直接会話をすることで少しずつではあるが認知症の状態を知ってもらえている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを決めて会議をする事で現状を知って頂き、今後の課題に対するアドバイス・意見をもらうことでサービスの向上の参考にしている。	毎回テーマを決め、活発な意見交換を行っている。スタッフも交代で参加している。年1回は委員全員で試食会を行い、出された意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議の他にも、様々な手続きなどの場面で実情を知って頂く機会がありその都度現状を伝え、相談を行い協力をいただける取り組みをしている。	日常的に家族からの悩みや困難事例について相談をするなど、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員「身体拘束」を理解し研修も行う。日々の場面で、拘束をしないケアを実践するよう常に心がけが出来る。	身体拘束は行わないという方針で、毎年研修を実施している。特に日常ケアの中で気づかないうちに言葉による虐待をしていないか、職員自身での振り返りも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員研修を行い、進退・言葉どちらにおいても虐待が決して行われる事無い様、また見過ごされない様常に問題意識を持ちケアを行っている。		

事業者名:グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に職員全員で研修を行い制度を学習し成年後見制度利用の入居者の方がいるので直接後見人の方との関わりもあり大きな学びができていられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明には十分な時間を取り、不安・疑問な点はどんな小さな事でも申し出ただけの声かけを行いその都度対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・面会時だけでなく、個別に家族面談を設けたことにより家族の意見・要望を更にしつかりと聞く事ができ運営推進会議での報告も行っている。	家族会や面接時だけでなく、個別に年1回は家族面談日を設け、一緒に食事をしたり、外部評価の結果報告や運営推進会議の報告などを行っている。出された家族の意見や要望を、職員全体で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティング時に意見を述べる事ができ、ミーティング以外でもユニット長を通し、または直接意見を述べる事が出来る状態である。	日常から意見を言いやすい雰囲気ができており、ユニット毎の話合いや月1回のミーティングで話合いの機会を設けている。管理者との面会の機会も年1回設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の職員の状況を常に把握しているため代表者への報告・相談も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議における全員での内部研修を行い、更に個々に必要な外部研修への参加を常に行い学ぶようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事で、同業者との交流があり、また施設見学などを通して意見交換などができている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人の面談の中で「思い」を聴き、それに沿ったサービスを職員全員で考えた上で環境に慣れて頂きなじみの関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族の「思い」と入居者とのそれまでの関わり方等を伺う事で不安・要望等を聴き、信頼関係を築く事を心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体的・精神的状態を把握する事でまず何が必要か考え初期段階ではこまめにカンファレンスを行い対応をしていくよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築けるように職員が意識を持ち日常生活の様々な場面でのコミュニケーションを心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面談・面会時に現状報告を行ったり、2ヶ月に1度、各家族へ送るお便りの中で現状の報告や直面している問題などお伝えしており、家族の支援が必要な場合の理解は得ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時、いつでも気軽に来て頂けるよう職員とも馴染みの関係が出来る様に心がけている。また、手紙のやり取りを取り次ぎ長く続くように支援している。	自宅周辺や道の駅、よく行っていた海などへドライブや散歩で出掛けたり、知人に連絡して面会に来ていただいたり、関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者同士の会話・表情などに気を配り洗濯物たみやレクレーションの場で職員が間に入り会話の橋渡しをしたり、個別に職員と一対一で会話や関わりを持つように心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ行かれた方の近況をご家族に電話で伺うなどして関係性を大切にしよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを中心に日々一人ひとりの様子をしっかりと把握するよう努めご家族からも生活歴を伺うようにして情報を全員で共有するようにしている。	家族や本人から得た情報はグループカンファレンスで話し合い、フェイスシートに追加している。視点を新しくするため担当者を随時交代させ、情報は全員で共有し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各担当者を中心に、全職員殿入居者についてもしっかりと把握するよう努め、ご家族からも生活歴を伺うようにして情報を全員で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルサインチェック・申し送り時の日誌を中心とした情報の共有を怠らず、職員各自が一人ひとりについての現状を日々しっかりと把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとってよりよいケアを考えそこにご家族の気持ちを家族面談や面会時に伺いしっかりとケアプランに反映するようにしている。	ユニット毎にグループミーティングを行い、気づきを話し合っている。それを基に月1回の全体会議で計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の日誌・申し送り記録から更に個別の記録を行う事で職員間での情報の共有が出来る。ファイルを個別にしていつでも手にとれる保管をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同ユニット内だけでなくもう一つのユニットの職員とのコミュニケーションを取ることで新しい意見を受けられチームアプローチの幅を広げることに取り組んでいる。		

事業者名:グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩・買い物時に近所の方と挨拶を交わし交流の時間を少しでも作る様にしている。地域の理髪店の利用や地域での買い物を通しコミュニケーションを取れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院による往診を受けている。必要に応じて専門医の受診や訪問診療を受け常に母体病院への報告も怠らないようにしている。	母体の病院をかかりつけ医にしている利用者が殆どである。かかりつけ医と歯科の定期的な訪問診療があり、専門医の受診も、本人、家族の希望にあわせ支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の往診があり、日々身体面で気になる点を伝え必要に応じて処置を受けている。往診時以外でも常に連絡を入れる事が出来相談が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院への入院の際、日々情報交換を行い退院後のケアの指導もしっかりもらう事ができている。他医療機関への入院の際も見舞いに行き情報も受けるように努め早期退院を目指すようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族面談を行い重度化・終末期の対応の希望を伺っておきキーパーソンだけでなく親族の皆さんの意思確認をいただいている。その意向を全職員が理解できるように努めている。	重度化や終末期の方針を職員全体で共有しており、家族会や運営推進委員会でも議題として取り上げ意見を聞くとともに、事業所ででき得るケアについての説明も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成・研修を何度も行うことで緊急時に備えた学習をしっかりと行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成・研修を何度も行い全職員が万が一の際への意識を持っている。行政への相談・地域・家族の協力もお願いしている。	年2回の防災訓練のほか、事業所独自で、消防署や地域住民が協力した夜間想定避難訓練を実施するなど、「防災訓練計画」を具体化し、改善をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な場面での入居者のプライバシーへの気配りを、職員が常に意識することができるよう研修での教育を中心に学び常に心掛けている。	日頃から一人ひとりの尊厳やプライバシーを重視し、言葉遣いにも配慮している。年1回研修を行い業務の振り返りと職員の意識づけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「業務ではなく入居者優先」の意識を職員が持ち、ゆっくりと入居者に対して傾聴が出来るような場面・時間を持つよう意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活歴を知り、生活リズムのパターンを一つにあてはめず全体の中で起床・食事・休息など個々のペースを大切にしていけるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪・髪染めを外出や訪問で行っており、常に身だしなみに配慮したり自立した入居者は自身で衣服を選ぶよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全体の食事メニューを統一する中で、好みに合わせられるところは臨機応変に対応している。食事作りのなかで果物の皮むき・野菜のカット・皿洗いなど一緒に行っている。	事業所内で調理しているため、一人ひとりの体調の変化や希望によって、メニューの変更や食事形態の変更も行いやすい。利用者が職員とともに調理の手伝いや片付けを行い、テーブルを囲んで一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成時の栄養バランス・量の検討をしっかりと行い手作りしている。毎日の水分量・食事量のチェックを毎食行い、特に水分量の少ない入居者には、個別に量の把握をし好みの飲み物を提供し水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きできる方は声かけ見守りにて、介助が必要な方に対しては職員が食後の口腔ケアを行い常に清潔を保つよう心掛けている。		

事業者名:グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンに合わせたトイレの誘導・介助を行い、汚染を防ぎ常に清潔を保つことを心掛けオムツの使用は最終手段と考えトイレでの排泄を支援している。	トイレでの排泄を基本に、「おむつ使用ゼロ」を掲げ、一人ひとりの排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し特に便秘を防ぐため水分摂取・適度な運動・腹部マッサージや繊維質を多く含んだ食べ物の提供などを行っており必要に応じて緩下剤の使用を病院と相談しながら取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全体的入浴時間を統一しつつ、個々の希望・タイミングで午前・午後を分けている。入浴拒否の強い方への声かけ、介助方法を常に話し合いながらゆっくり気持ちよく入浴していただけるよう支援している。	午前と午後に分けて、一人ひとりの希望に添いながら介助している。入浴拒否の場合は、タイミングをはかり、家族も交えて介助方法を話合うなど、無理強いをしないよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間しっかり眠って頂けるよう環境づくりを行い日中も居室・自席・ソファなどそれぞれ落ち着いた場所での休息をしていただき見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のリストを作成し常に職員が入居者一人ひとりの薬について理解・把握するよう努めている。薬の変更・頓服での処方があった場合も伝言洩れのないよう薬ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、好みをまず把握し出来る事を少しでも楽しく行えるように作業やレクリエーションに取り入れ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物で戸外に出る機会を作り、車椅子で園周を散歩したりしている。また家族の協力が得られる場合、家族との外出を行っている。	買い物や散歩、美容院など、一人ひとりの希望に合わせて外出をしている。特に外出希望のない人は、ベランダで日光浴をしたり、駐車場などでできるだけ外気にふれる支援をしている。	

事業者名：グループホームみよしファミリー園(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭の管理を行っている入居者もあり、そのほかの方には外出レクの際にお預かり金の中より買い物を行い支払いをしていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方がおり自由にされている。そのほかの方にも必要・希望に応じて取次ぎを職員が行い、手紙のやり取りも続けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の清潔・安全を第一に配慮し、季節の花・グリーン・水槽を置き、自由に観賞できる様にしている。入居者の動線に合わせた広い空間をしっかりと確保するよう気をつけている。	共用空間での調理の音や香り、生け花や装飾などが生活感や季節感を出しており、それぞれのくつろぎの空間も一人ひとりの居心地の良さに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間では、ソファ・椅子を置き自由に一人ひとりが居心地の良い場所で過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には以前から使用していた家具などをご家族と相談し配置することで本人の落ち着いた空間作りをしている。	入所時に家族とよく話し合い、使い慣れたもの、馴染みのものを持ち込んでもらっている。それぞれの居室が、本人および家族の思いを反映した設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な表示(トイレ・居室ネームプレート)を行い手すりの設置により危険を回避し安全で自立した生活を送れるよう支援している。		